

■東京大賞典（GI）アラカルト（過去全 67 回の分析）

※第 1 回（昭和 30 年）から第 9 回（昭和 38 年）までは「秋の鞍競走」の名称で実施

※第 10 回（昭和 39 年）からは「東京大賞典」の名称で実施

※第 1 回（昭和 30 年）から第 7 回（昭和 36 年）までは 2,600m で実施

※第 8 回（昭和 37 年）から第 34 回（昭和 63 年）までは 3,000m で実施

※第 35 回（平成元年）から第 43 回（平成 9 年）までは 2,800m で実施

※第 44 回（平成 10 年）からは 2,000m で実施

※第 41 回（平成 7 年）からは指定交流競走として実施

※第 57 回（平成 23 年）からは国際競走として実施

※記録は令和 4 年 12 月 9 日時点

■ 1 番人気馬のうち 7 割近くが 3 着以内を確保

単勝 1 番人気馬は 23 勝、2 着 15 回、3 着 7 回で、3 着内率が 67.2%、単勝 2 番人気馬は 13 勝、2 着 13 回、3 着 9 回で、3 着内率が 52.2%、単勝 3 番人気馬は 12 勝、2 着 10 回、3 着 9 回で、3 着内率が 46.3%となっている。上位人気馬はそれなりに信頼できると見て良さそうだ。ちなみに、単勝 10 番人気以下で優勝を果たした馬はまだいない。

■ 近年は特に上位人気勢の健闘が目立つ

過去 67 回のうち 48 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着は 27 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 7 回ある。なお、第 53 回（平成 19 年）以降の過去 15 回中 12 回は単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着、5 回は単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着だ。

■ 5 歳以下の馬が優勢

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 17 勝、4 歳が 22 勝、5 歳が 17 勝、6 歳が 7 勝、7 歳が 4 勝となっている。5 歳以下の比較的若い世代が中心と言って良いだろう。

■ 4年連続勝利のオメガパフュームを含む4頭が“連覇”を達成

東京大賞典において2回以上の優勝経験がある馬は、第30回（昭和59年）と第33回（昭和62年）を制したテツノカチドキ、第50回（平成16年）と第51回（平成17年）を制したアジュディミツオー、第56回（平成22年）と第57回（平成23年）を制したスマートファルコン、第59回（平成25年）と第60回（平成26年）を制したホッコータルマエ、第64回（平成30年）、第65回（令和元年）、第66回（令和2年）、第67回（令和3年）を制したオメガパフュームと、これまでに5頭いる。なお、アジュディミツオー、スマートファルコン、ホッコータルマエは2年連続の、オメガパフュームは4年連続の優勝だ。

■ 牝馬は6勝、外国産馬は3勝

東京大賞典において優勝を果たした牝馬は、第1回（昭和30年）のミスアサヒコ、第13回（昭和42年）のヒガシジヨオー、第35回（平成元年）のロジータ、第38回（平成4年）のドラールオウカン、第39回（平成5年）のホホワイトシルバー、第46回（平成12年）のファストフレンドと、これまでに6頭いる。また、外国産馬は第43回（平成9年）のトーヨーシアトル、第49回（平成15年）のスターキングマン、第62回（平成28年）のアポロケンタッキーと、計3勝をマークしている。

■ ここ16年連続でJRA所属馬が勝利

指定交流競走となった第41回（平成7年）以降の過去27回に限ると、地方所属馬は4勝、2着7回、3着9回、JRA所属馬は23勝、2着20回、3着18回となっている。ちなみに、優勝を果たした地方所属馬は第51回（平成17年）のアジュディミツオーが最後だ。

■ 騎手別の歴代最多勝記録は「5」

騎手別の勝利数を見ると、5勝の武豊騎手が単独トップ。4勝の内田博幸騎手、M. デムーロ騎手が2位タイ、3勝の赤間清松騎手、佐々木竹見騎手、幸英明騎手が4位タイとなっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録も「5」

調教師別の勝利数を見ると、5勝の小暮嘉久調教師が単独トップ。4勝の大山末治調教師、安田翔伍調教師が2位タイ、3勝の岡部猛調教師、出川己代造調教師が4位タイとなっている。

■ 1 番、15 番、16 番の馬は未だ 0~1 勝どまり

枠番別勝利数を見ると、8 枠（12 勝）が単独トップ。6 枠（11 勝）が単独 2 位、2 枠と 3 枠（各 9 勝）が 3 位タイとなっている。なお、もっとも勝利数が少ないのは 1 枠（3 勝）だ。また、馬番別勝利数を見ると、2 番と 5 番（各 8 勝）がトップタイ。3 番、9 番、13 番（各 6 勝）が 3 位タイである。ちなみに、未勝利の馬番は 15 番のみだが、1 番と 16 番もそれぞれ 1 回ずつしか優勝例がない。